

1. 家庭の状況について

Q1 あなたの出身地はどこですか [択一]

山口県が出身である学生は 27.0%と最も多い。次いで広島県の 15.9%、そして福岡県の 13.4%となっている。中国地方 5 県の出身は 50.1%であり、これに福岡県出身を加えると 63.5%となる。長崎県からの出身は 4.9%と四国地方の合計値を上回っている。女子学生の子口県出身は 3 割を超えており、その地元志向が垣間見られる。

山口県出身学生は2001年度28.8%であったのが、2005年度24.8%と大きく下がった。その後、2010年度26.0%、2015年度27.0%と増加に向かっているようである。広島県出身は2001年度よりわずかに増加傾向にあるようにもみられるが、福岡県出身の割合は年度ごとに上下した横ばい傾向にある。

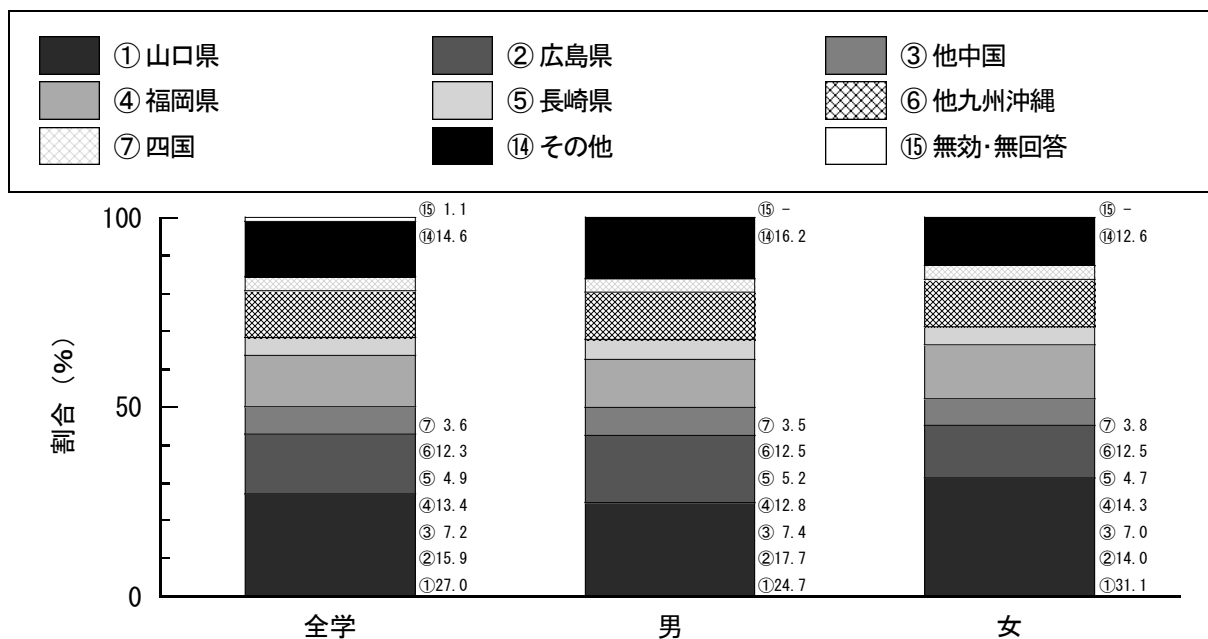


図 1-1-a Q1 の集計結果 (全学・男・女別)

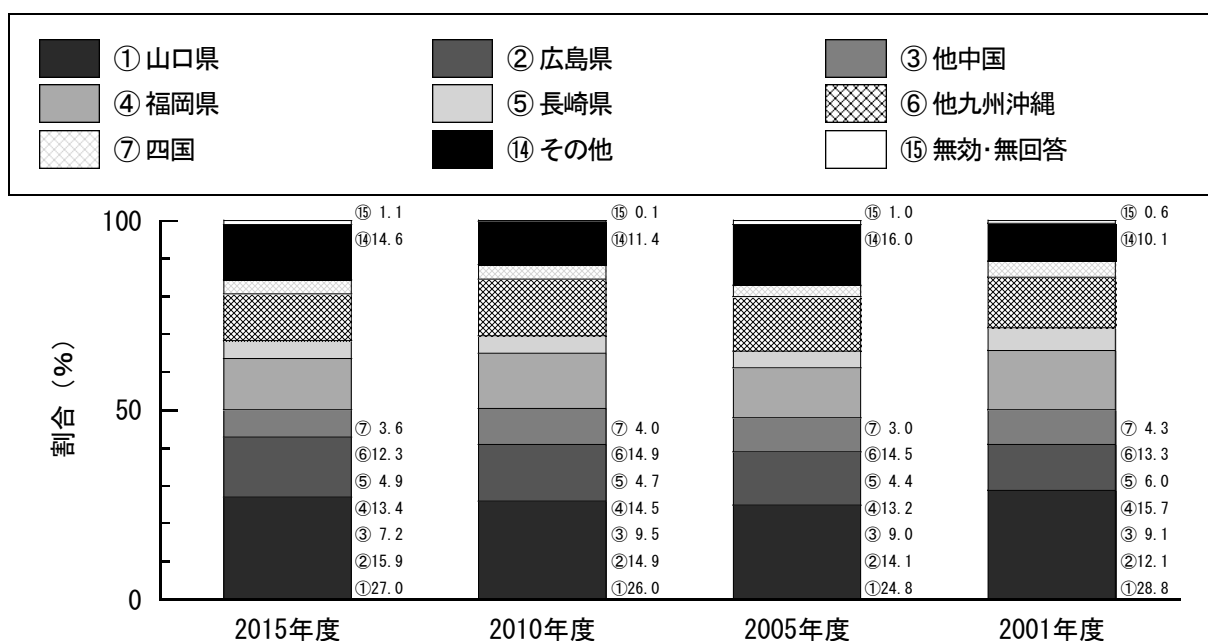


図 1-1-b Q1 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q2-a <家庭の状況について>

主たる家計支持者は誰ですか（世帯員の内、最も多く金額を入れている者） [択一]

主たる家計支持者を「父」と回答した学生は84.3%と最も多い。次いで「母」と回答した学生13.2%であった。この両者の合計は97.5%となり、ほとんどの学生の家計支持者は両親のいずれかであると言ってよいだろう。男女間における違いはほとんどみられない。

いずれの年度においても主たる家計支持者が「父」と回答した学生が多く、次いで「母」と回答した学生が多い。両者の合計値は、2001年度98.0%、2005年度97.2%、2010年度98.6%、2015年度97.5%であり、ほとんど変化していないと言ってよいだろう。一方で「母」と回答した学生に関しては、2001年度8.7%、2005年度9.8%、2010年度11.8%、2015年度13.2%と増加傾向にあるように思える。

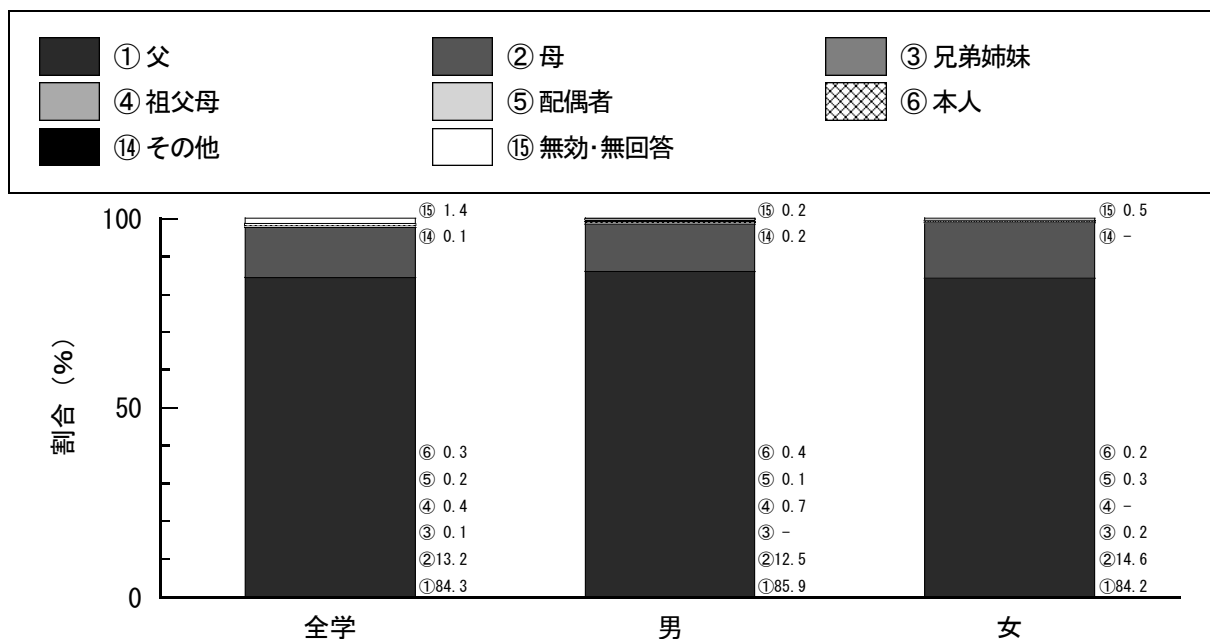


図1-2-a Q2-aの集計結果（全学・男・女別）

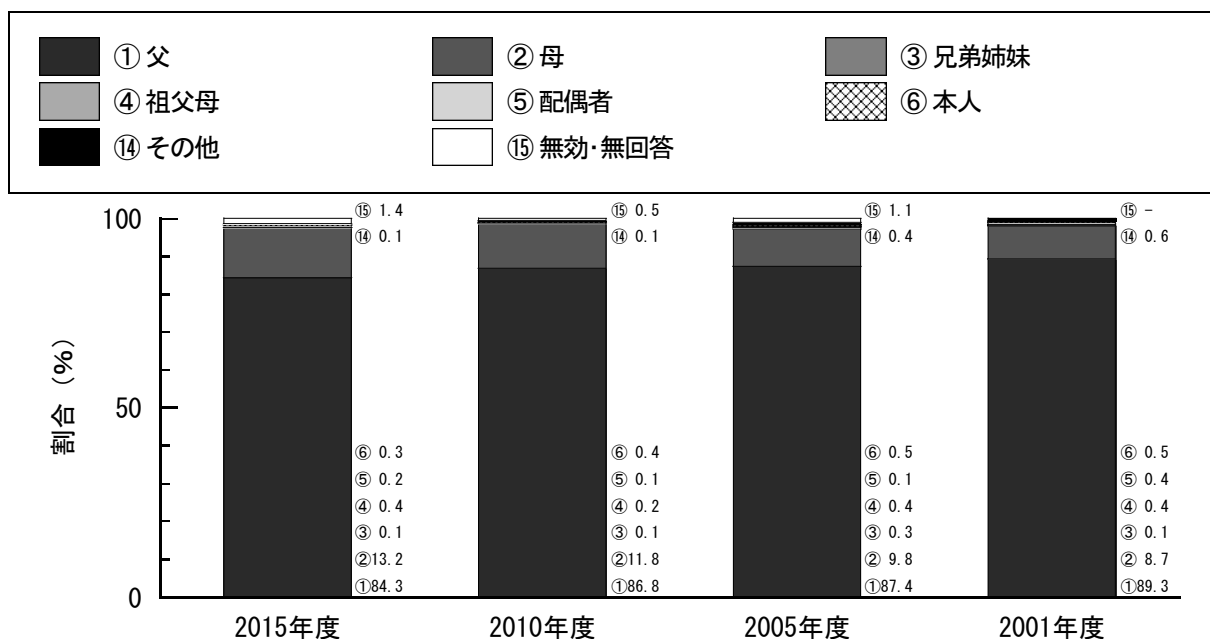


図1-2-b Q2-aの集計結果（全学に関する調査年度別）

Q2-b <家庭の状況について>

主たる家計支持者の年齢はどれですか [択一]

主たる家計支持者の年齢として最も多かったのは、「50代」の62.2%であった。次いで「40代」の26.7%となっている。Q2-aの結果から主たる家計支持者は両親と考えることができる。大学生の年齢はおよそ20歳であるから、その学生の出生時の家計支持者の年齢は回答項目から20を減じた年齢層となる。学生はその両親が20代や30代での子どもということになり、極めて自然な回答結果と言える。「60代」と回答した学生も8.3%と少なくはなかった。男女間における違いはほとんどみられない。

いずれの年度においても「50代」そして「40代」と回答した割合が高く、この両者の合算が全体のほとんどを占めている。しかしその合算値の推移は、2001年度95.8%、2005年度92.1%、2010年度92.9%、2015年度88.9%であり、減少傾向にあるように捉えられる。一方で「60代」と回答した学生の割合は、2001年度2.8%、2005年度4.3%、2001年度5.3%、2001年度8.3%と増加傾向にある。反対に「40代」と回答した割合は2001年度36.8%であったものが、2015年度26.7%と減少している。

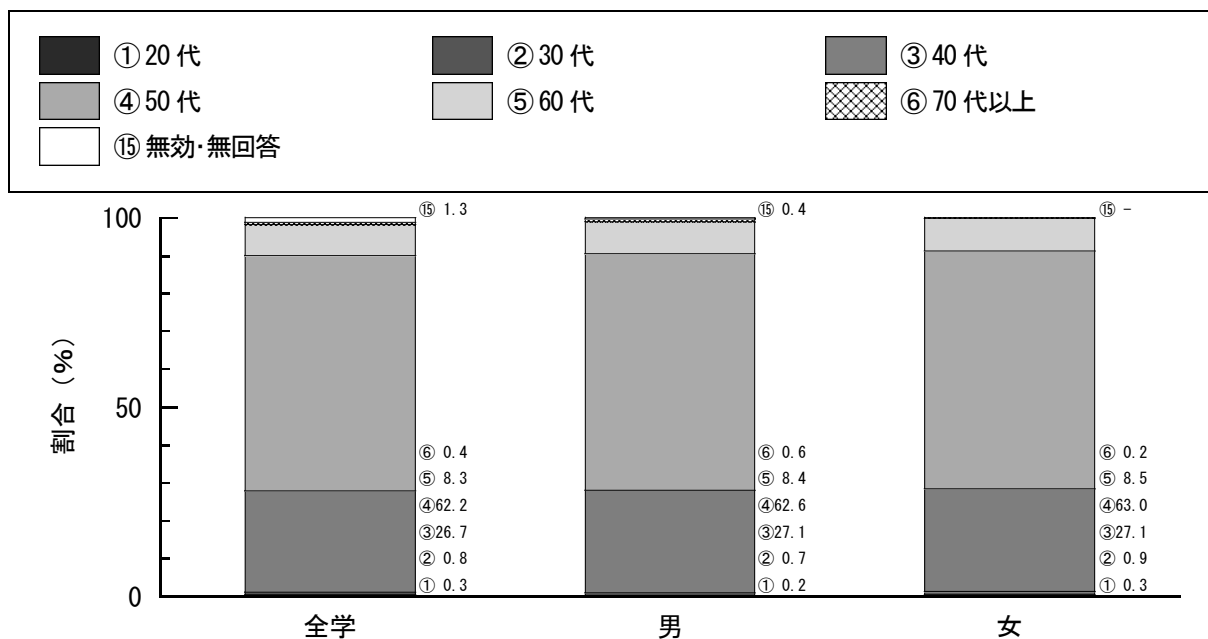


図1-3-a Q2-b 集計結果 (全学・男・女別)

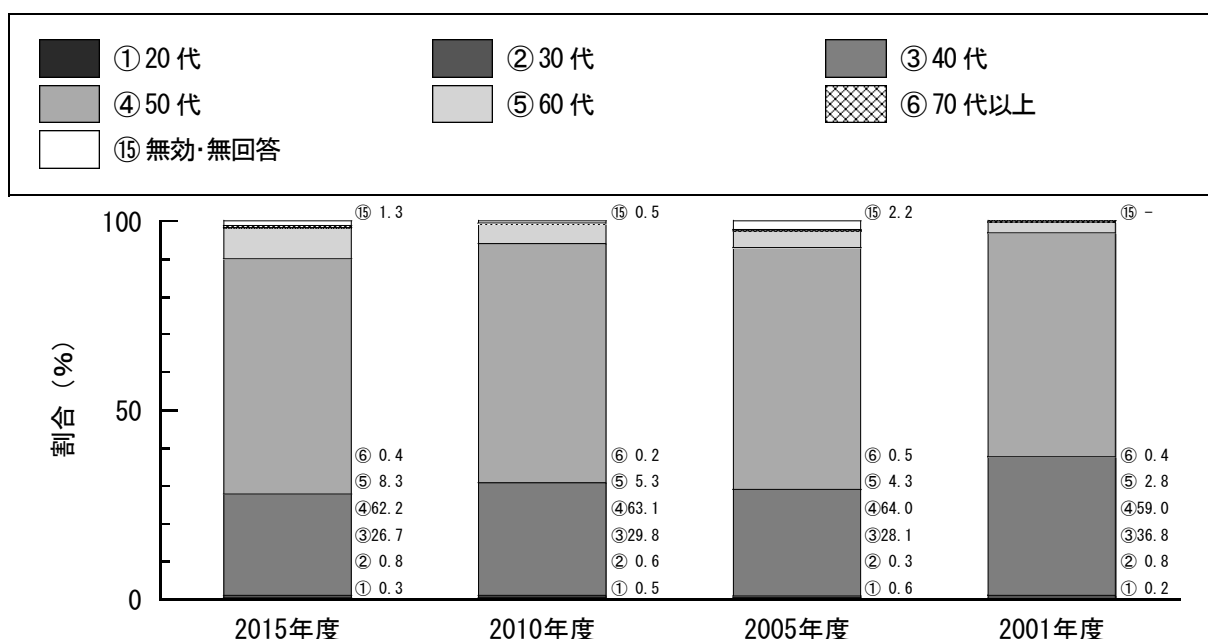


図1-3-b Q2-bの集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q2-c <家庭の状況について>

世帯員全ての年間所得総額は次のどれに該当しますか [択一]

39.4%の学生が「わからない」ないし「無効・無回答」となっている。およそ4割の学生は、世帯の年間所得額（主に両親の収入状況）を知らないという状況であるようだ。「わからない」と「無効・無回答」を除いた選択項目において最も多いのは「400万円～600万円未満」13.3%、次いで「600万円～800万円未満」12.7%、「200万円～400万円未満」11.2%となっている。男女間の相違としては男子学生のほうが「600万円～800万円未満」と回答した割合が女子学生よりも5%程度高い。

世帯所得額を知らない学生層は調査年度を通じてどれも4割とほとんど変化がない。「200万円～800万円未満」の合計値をみると2001年度34.7%であったのが2015年度37.2%となり、わずかに増加傾向が感じられる一方で、「800万円以上」の合計値は2001年度22.4%であったのが2015年度19.4%とわずかに減少傾向が感じられる。

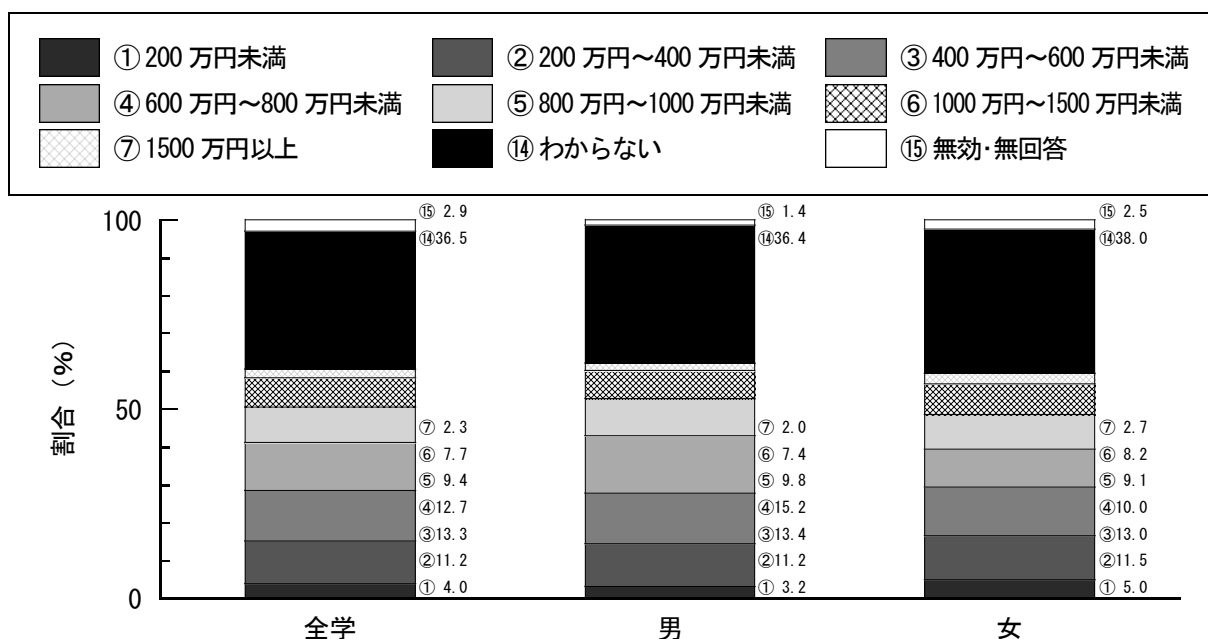


図1-4-a Q2-c 集計結果 (全学・男・女別)

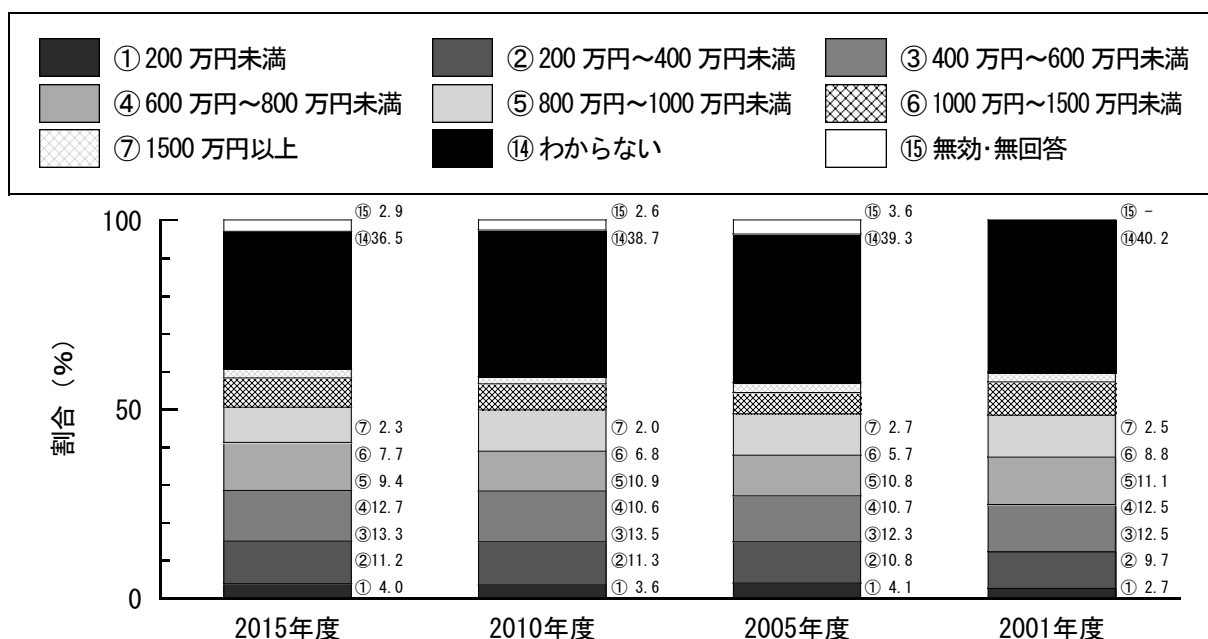


図1-4-b Q2-cの集計結果 (全学に関する調査年度別)